

令和3年度第1回北九州市立図書館協議会 会議録

- 1 会議名 令和3年度第1回北九州市立図書館協議会
- 2 議題 ① 令和3年度北九州市の図書館（図書館年報）について  
② 令和2年度北九州市立図書館の運営に関する評価について  
③ その他
- 3 開催日時 令和3年11月24日（水） 14時00分～16時10分
- 4 開催場所 北九州市立子ども図書館2階大研修室

5 出席者氏名

(1) 委員（会長他10名、欠席委員4名）

北九州市立大学図書館長	中尾 泰士（会長）
北九州市学校図書館協議会副会長	本田 壽志
北九州市学校図書館協議会会長	上満 佳子
北九州市私立幼稚園連盟理事	山下 一恵
北九州市PTA協議会副会長	原田 香
公募委員	中島 徹
公募委員	山中 啓稔
北九州青年会議所常務理事	大下 亜耶
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会委員	黒田 美奈子
北九州市A V Eの会事務局長	田辺 武彦

(2) 事務局（中央図書館長他4名）

中央図書館館長	石井 佳子
中央図書館庶務課長	三ツ廣 託規
中央図書館奉仕課長	福田 淳司
中央図書館子ども図書館長	河村 信孝
中央図書館庶務課庶務係長	岩井 由美

6 傍聴者 1名

## 7 会議次第

議事（報告、質疑応答）

## 8 会議経過（発言内容要旨）

### （1）議事

#### ① 令和3年度北九州市の図書館（図書館年報）について

「北九州市の図書館（図書館年報）」について、事務局から説明。

（委員）

レファレンスサービスで、どういうレファレンスが行われているか、何か回答できるか。

（事務局）

レファレンスサービスは、利用者と話をしながら、具体的に本を探したり、あるいは利用者が探している新聞記事を見つけ出すなど、本についての色々な調査をする、相談に乗ることである。

（委員）

最近、福井県立図書館の「うろ覚えタイトル本」がかなり人気になっているが、そういう何か楽しいタイトル間違いなどを北九州市立図書館は集めたりするのか。

（事務局）

それはないが、国立国会図書館の共同レファレンス利用とって公立図書館や学校図書館が集まって、レファレンス事例を発表する場がある。北九州市立図書館から随分前に「くしゃみの由来」のことを上げたら、コロナ禍のせいか、ここ2年位、急激にアクセス数が増えた。こういう時期なので、よく見られているのかなと思う。

（委員）

役に立つレファレンスをしていただくと、北九州市の名前も上がるのではないかと思う。

（委員）

今回、新任のため、図書館の現状を年報で示していただいたのは非常に現状が分ってありがたい。ちなみに、この年報というのは、毎年作られて公開はされているのか。

（事務局）

年報については、毎年、冊子を作るとともにホームページにも公開している。

(委員)

年報 24 ページ (3) 「ア、個人貸出」について見ると、本の一人当たり貸出冊数は戸畑がすごく高い。しかしながら、調べてみると他の政令指定都市であれば、むしろ戸畑よりも高い。また外国と比較すると、日本は先進国のなかでそもそも低い。北九州市の人口に対する貸出冊数が少ないというのはちょっと残念だが、次の議事である図書館の評価に関し、利用者を増やす活動やネットワークをどうするかなどについても関連するので、興味を持っている。

(委員)

北九州市は、5 市合併というそれぞれの区の特徴があるところに図書館が出来ていたので、各区で特色があって、商業や農業、工業などバランスがとてもよく取れている。その地域の図書館に行けば専門的な本があり、北九州市は面白いと思う。この特性を生かして、それぞれの図書館が連携して進めていけば、北九州市らしい図書館の運営の仕方を探っていけるのではないかと。

(会長)

それでは年報については、報告を受けたということにする。

## ② 令和2年度北九州市立図書館の運営に関する評価について

「北九州市立図書館の運営に関する評価」について、事務局から説明。

### 視点 1 「多様な施設とつながる図書館」について

(委員)

視点 1 一方向性 (1) についてだが、松本清張記念館でのプロジェクション・マッピングを見て、イベントを通して来館しやすい環境づくりになっていると感じた。内部評価が B というのは、遠慮している感じがする。

(事務局)

新型コロナウイルスの影響で、イベントは行いにくいところがあり、概ね前年並みの B 評価とした。しかしながら 49 の取り組みのうち一つ一つを見て、A でもいいのではないかと、この箇所は前向きに評価した。

(委員)

視点 1 一方向性 (3) 一具体的取組⑨に関し、市民センターもセンターだよりにひまわり文庫について掲載している。また、地域の読み聞かせのボランティアの皆さんの対応がとても良いと聞いている。市民センターは地域の拠点として親子のよりどころとなっていて、この連携がとれている点で、A 評価でいいと思う。

(委員)

視点1一方向性(2)一具体的取組⑦のなかの選書会議について、コロナの関係で健康や感染症などについての本のニーズが増えてきているようだが、年報の25ページの分類ではどこに入るのか。

(事務局)

図書館では十進法で図書を分類しているので、テーマ別にすると、いろいろと分かれてしまう。エッセイ、医学関係、健康など。十進分類法のなかでは、社会科学、自然科学、文学などいろいろなものに分かれてしまう。

(委員)

選書については市民の生活や仕事、健康などに応えられるようにされていると思うが、この評価ではそれが分からなかった。時代の流れや市民のニーズにできているかどうか分かるような評価をしていただきたい。

(事務局)

課題解決型の図書館運営が、一つの最近の図書館のムーブメントになっている。従来の日本十進分類法ではなく、さきほどの健康や医療などの分類で図書館利用を進めるとともに、図書だけでなく講演会をやって市民の問題解決につなげるのが最近の動きである。しかしながら本をテーマ別に配架するのは非常に難しいので、健康や医療などについての特設コーナーを今は作っている。

(委員)

視点1一方向性(2)一具体的取組⑤、視点1一方向性(2)一具体的取組⑥について、来年度から高校では探求型の学習が導入され学習指導要領が変わるが、今後、図書館の役割も重要視されるのではないか。大学や中学校も同様だと思うが、この連携について、今後どのようにしていくのか。

(事務局)

大学の先生方が公立図書館で講演を行う、専門図書の相互貸借をやっているなどの他都市の話聞くが、まだまだ北九州市はそこまで進んでいない。先日、北九州市立大学の図書館を見学させていただいたが、SDGsやLGBT、ジェンダーなどの展示を学生が主体的に行っている。大学との連携については、先生方とともに、学生達とも一緒になって何か具体的なことができないかについても、今後検討していきたい。

(会長)

それでは、視点1については図書館が評価したものでよいということで進める。

## 視点 2「市民の課題解決を支援する図書館」について

(委員)

視点 2 一方向性 (1) 一具体的取組②について、オンライン化が進まなければ、また、コロナ禍でなければ、ここまでしなかったことをしっかり取り組んだということで、評価を上げてもいいのではないか。

(事務局)

B 評価は継続的安定的に取り組みが行われたり、数値が一定水準で維持されたりするなど、順調なものということである。A 評価でもいいのではないかというご意見だが、さらに積極的な取り組みという点でちょっと足りなかったことから B 評価としている。

(委員)

視点 2 一方向性 (2) 一具体的取組⑤について、さきほど申した通り、5 市合併を背景とした郷土のための図書館を私たちはすごく誇るべきではないか。コロナがなければ A 評価になったのではないかと思う。

(委員)

個人や家族についての課題解決については取り組まれているが、NPO などの地域の団体の活動に対する課題解決への取り組みを行っているか。

(事務局)

基本的に図書館は個人に対する貸出しをメインにしている、団体の活動に対する課題解決への支援というのは現在のところ存じていない。他都市においては一部そういうこともあるとは聞いている。

(事務局)

図書館とは別の話にはなるが、視聴覚センターでは、AVE の会と一緒に視聴覚部門の人材育成をやってきた経緯がある。AVE の会には本当に感謝しかない。今となっては製造されていない 16 ミリの視聴覚教育と一緒に取り組んでおり、AVE の会は全国の視聴覚連盟で毎年、表彰されている。今後、図書館でも何かあれば、一緒にやっていけるかなとは思っている。

(委員)

視点 2 一方向性 (2) 一具体的取組⑤について、島郷分館が例えば、立地的に市民センターと併設されているとあるが、他の市だと、商工会議所や観光協会などと図書館が近い。インバウンドやシビックプライドとして地域の魅力を伝えていくのに本や AV 機材はいい材

料だと思う。そういうものを活用して、小倉駅北口のスタートアップ（創業支援）事業は、産業を起こす、観光を復活するなど、色々な団体とより図書館が連携出来る素地があるのかなと思う。

（会長）

この協議会自体が、色々な組織から代表が出てきているので、その中から図書館への要望なども言えば、色々な所とつながっていることになるのではないかなと思う。

視点2については、評価を上げてはどうかというご意見もあったが、今後のきっかけにということで、全体としてBのままをしたい。

### **視点3「子どもの読書活動を積極的に推進する図書館」について**

（委員）

視点3 一方向性（2） 一具体的取組⑩について申し上げたい。先日、ある中学校の開放週間に文化活動発表を見に行った。学校に入ると、ビブリオバトルの発表が一面にあって驚いた。聞いてみると、5月からずっと司書、教務主任、校長が一緒になって、全員に1人1冊取り組ませたようだ。読書感想文が苦手な生徒が多いなか、文科系の生徒もスポーツが得意な生徒も全員が同じスタートラインに立って読書に取り組んだ様子は本当に圧巻だった。子ども図書館でも同じ取り組みをしたと聞いている。「本のスタートライン」を見た感じで、本の力をまざまざと発見した。

中央図書館と学校との連携が取れてきている、確実に実っているというのが見えて、安堵した。中学生になると受験があって、活字の本に行きにくいのが、これからもこのビブリオバトルのように、全員が本に対して興味を持つことを中央図書館が率先して努力をしているというのに、評価がCというのは、読書感想文に予想以上の学校が取り組んだが、出品数が大幅に減ったということだろうか。

（事務局）

読書感想文については、委員が仰るように、点数が半減した。これが単に数が減ったというよりも参加する学校数も半減した。夏休みも日数が随分減らされ、学校に余裕がなくなっているという理由があったのは確かだが、規模としては小さくなったので、そうさせていただいた。

それからビブリオバトルについては、図書館協議会委員に中学校の中心で活躍されている先生がおられるので、学校内の様子が手に取るように分かると思う。ちょっとご意見をいただきたい。

（委員）

私が昨年までいた中学校では、ちょうど今が4年目だ。私がいなくなっても残りの先生が継続して下さり、今、それがその中学校の伝統になりつつあって本当に良かった。今年は、

子ども図書館の方で「こども読書の日」に中学校のビブリオバトルで良い成績を残した生徒が招待されて、この場所で発表して交流会を持った。また、これを近隣の中学校の先生方をお呼びして広げていこうという取り組みをして下さった。その生徒が生徒会新聞で子ども図書館を訪問した様子やビブリオバトルをした様子などを広めて、どんどん良いものにして行こうとしている。私の中学校でもぜひしたいのだが、どうしても国語科の先生の協力が必要なので、今はビブリオバトルではなくて、読書カードのように自分の読んだ本の紹介をしている。それをまた広めて行きたいと思っている。ビブリオバトルは本を読むことだけでなく、プレゼンテーションの力など色々な力が身につく素晴らしい取り組みなので、子ども図書館に北九州市の目玉にさせていただきたいとお願いしているところである。

(会長)

コロナ禍で小中学校も大変だったので、先生方も余裕を失って、こういう感想文などを出すよう指導するのも苦労されたと思う。結果、図書館だけの努力では何ともし難いところがある。若干、(⑰については)厳しめではあるが、内部的にはCとなっている。(視点3の)内部評価では、Cが1点で、Aが2点、評価せずが1点、全体はBという評価であり、この通りとする。

※ ( ) は事務局の追加記述。

#### **視点4「誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館」について**

(会長)

コロナ禍で、昨年にくつろいではいけないという感じの図書館運営になってしまったので、どうしてもC評価という項目があるが、それ以外の項目は順調という評価である。

ずっとC評価だった郷土資料のデジタル化がようやくBに上がっているということで、こちらについて、何か説明することはあるか。

(事務局)

中央図書館にしかない郷土資料が結構あり、かなり古くなっているのでデジタル資料として保存するためにスキャナーを買った。それほど一度には出来ないが、行政資料や古地図を中心にデジタル化を進めている。また、北九州の郷土資料版のパスファインダーを作成した。

(委員)

先ほど少し話題となった大学との連携で、学生を作業に動員するということも考えられるかと思う。大学などへ働きかけてみて反応があるかどうか保証は出来ないが、ゼミの内容によっては、こういうことを活動に出来るような大学の学生もいるかと思うので、声をかけてみるというのもあるのでは。

(委員)

なかなか評価を上げて下さらないので、評価を上げていただきたいところで、視点4一方向性(2)一具体的取組④でのバリアフリー化がある。実際、障害者への合理的配慮が法律でも決まったので取り組んでいるところだと思う。法律で決まったからと言って、必ずしなければならないというところは最低ベースとしても、当事者が依頼をしたら出来る範囲で応えていきたいと思いますという法律である。それを積極的にやっているという部分では、評価Bはちょっと過小評価ではないか。録音図書の貸出しや、大活字本の収集の充実なども行っている。これは、新たな試みではないのだろうか。Bの評価は1つ位、Aに上がらないのだろうか。令和2年度はコロナ禍で非常に大変で、現状維持も難しい中、現状維持しつつ、新しいチャレンジをしているところは、やはり働く側の意欲向上のためにも、ちょっと過大評価をしてもいいのではないか。例年もそう言っているが、1つ位評価を上げるよう検討していただきたい。

(事務局)

バリアフリー化の取組みは法律で決まっていて、我々もやるべき取組みということで進めているが、令和2年度はやはり対面でのサービスがほとんど出来なかった。障害者の方へのサービスは非常に難しいところがあり、令和元年度には実際に障害者の方に見ていただいて実践研修みたいなものを行った。そこで、色々な要望を聞きながら取り組んで行こうとしたが、昨年度は整備や資料の収集は進めたものの、対面でのサービスが出来なかった。このため、その前年と比べると難しいところがあり、B評価とさせていただいた。今年は少しコロナが落ち着いたので、また対面での研修で障害者の方の意見をいただいて解決していこうと思う。

(委員)

後ほどバリアフリー法の話も出てくるので、内部的には厳しく評価されているということと、今後に向けてジャンプ出来るように、今、力を蓄えているということかと思う。

(委員)

私の子どもから今日、図書館の会議に行くのだったら、視点4一方向性(3)一具体的取組⑩の中の読書通帳のことを聞くよう言われているのだが、読書通帳機は今、子ども図書館にしかないようだ。うちは、近くの小倉南図書館で毎週10冊位借りているが、こちらに来ないと通帳記入が出来ない。読書通帳機を各区の図書館に置いては貰えないのだろうか。置いて貰えるのだったら、いつ頃を目指しているのか。

(事務局)

読書通帳機については、ご利用をいただいている方には好評で、これまでに7,000冊位発行している。もう2、3冊目、多ければ7冊目という子どもさんもおられる。仰るように子ども図書館にしかない。われわれもそういった要望を沢山聞いているので、子ども図書館に



ある 2 台のうち 1 台は東部地区としてここに、もう 1 台を西部地区として八幡か八幡西に移設もあるのかなと思ってはいる。今、検討中である。ただ、すぐに移設という訳にはいかない。当然、予算もかかり、図書館システムに組み込まないといけない。読書通帳機を持って行って、線をつないで電源を入れれば使えるというものではなく、システム改修なども必要になってくる。システムの入れ替えが近々あるので、それとの兼ね合いを踏まえ、2 年以内には移設出来たらいいかなと思っている。

(委員)

これは、他の館で借りても、子ども図書館に来れば、通帳記帳されるという、仕組みなのか。

(事務局)

そうだ。借りている間は、打ち込みが出来るようになっている。返してしまうと記帳が出来なくなってしまう。

(会長)

貯めておいて、通帳だけ記帳に来るのは出来ないということで、これはなかなか難しい。お子さんには話せるか。なかなかお金の話は子どもにはしづらい。

評価を上げて欲しいという委員からの意見もあったが、なかなか上げるのは厳しいという判断なので、全体評価は B 評価ということにする。

## **視点 5 「市民参画型図書館」について**

(委員)

視点5—方向性(1)—具体的取組②に関して、募集の仕方や仕事内容を教えて貰いたい。

(事務局)

図書館ボランティアは年 2 回開催している養成講座で募集している。市政だよりやホームページで募集をして、申込者は通常 3 日の養成講座に参加の上で登録し、ボランティアとして活動している。主な仕事は、返却された本を棚に入れる配架で、他には本のクリーニングや、今は難しいが、イベントの応援などをやっていただいている。昨年度はコロナの影響で養成講座そのものが出来ず、登録者数が増えなかった。また、ボランティア活動を控えると言われて登録者数が減っている。

(委員)

年齢や性別でいくと、どのようなグルーピングが多いのか。

(事務局)

一番多いのは、高齢で特に女性の方が多い。中には30代の方もいらっしゃるが、やはり60代以上の方が多いのが現状である。

(委員)

そうだろうと推測はしていた。ルーチンで利用されている高齢の男性が結構おられる。そうした方を対象に、市政だよりだけではなくて、よく利用されている新聞や雑誌コーナーや窓口などで大きい文字でボランティア募集をしてみようか。募集の仕方次第で図書館を多く利用している男性層を人材バンクとして活用出来るのではないかと考えて、質問させていただいた。

(事務局)

絶対数では本当に男性の方は少ないが、毎年、何人かはいらっしゃる。館内での掲示はもう少し目立つようにしたいと思う。あと図書館の中では中央図書館のボランティアになりたい方が多く、他の図書館が足りないということもあり、全体のバランスをもう少し検討しながら考えていきたい。

(委員)

視点5 一方向性(1) 一具体的取組③の件だが、私もブックヘルパーを始めて今年で6年目である。私の学校は20人位いるが、ブックヘルパー研修に応募出来るのは学校で1人だけである。応募者も半分位しか当たらない。このため、出来ればもう少し回数を多くするか、区の図書館でやっていただきたい。学校もやはり図書に関するところで一番近い場所であるし、保護者としても子ども達が読書にもっと関わって欲しいと思っている。司書の先生とも話し合いながら、私達がやってみたいという思いがあるうちに、研修を増やしていただくとありがたい。

(事務局)

実は、ブックヘルパーの研修を今年度は12月に実施するようにしている。ただ人数は200校中、30数名なので、正直、ニーズには応えられていない。仰るように回数を増やすというようなことをやって行かないといけないと思っている。そのためには、我々だけではなく学校教育部や図書館コーディネーター、図書館職員の方にも協力いただく必要があり、これらと十分連携を取りながら、出来るだけニーズに応えられるように努力していく。

(委員)

この研修はオンラインでは不可能なのか。

(事務局)

出来ないことはないと思う。ほとんどの学校がオンラインで出来るようになっている。と

ころが、校内で他にオンライン研修をしていたりすると、こちらの研修は出来ない、となるので、それこそ学校現場と学校教育部への要相談になってくるのかなと思う。

(会長)

最近、家庭でもオンラインがかなり普及しているので、自宅から参加できれば、多くの方に研修に参加いただけるかもしれない。その辺は、現場の都合もあると思う。視点5については、ボランティアなどの研修が中止になったということで、「評価しない」が多くなっているが、全体としてはB評価ということにする。

そのほか、全体として何かあるか。

(委員)

評価に当たるかどうか分からないが、通常の貸出業務については八幡西のように自動でできないか。コロナの流行によって予算が取りやすい面もあると思う。レファレンスなど対面が必要なところに職員をシフトできないか。対面での貸し出しを望まない利用者もいると思う。職員と利用者の健康面、リスク分散のためにも有効である。今スーパーのレジでも広まっている。

(事務局)

まず一つ目として、全国的に電子図書館の普及が進んでいる。これは対面しなくてよく、自宅にいながら本が読める。それから自動貸出機があるが、これは本にICタグという小さなチップを入れるものだが、価格がどんどん下がってきている。このような研究はしているが、簡単には予算は取れない。しかしながら北九州市では今後5年間、DX推進計画を策定して推進していく予定であり、これにうまく乗れないかとも研究している。

(委員)

私たちはAVEの会員で、北九州市で50年以上の歴史があるが、近年会員が高齢化でどんどんやめていく状況で、会の存続があやしくなってきた。今年度中になんとか今後の運営について結論を出せればと考えている。

今、CDやDVDを図書館で借りることができるようになっているが、視聴覚センターの将来をどのようにするのか。今は規模を縮小して八幡の方でやっているが、資料と機材を各図書館で借りられるようになれば、視聴覚センターはいらなくなるのではないか。

(事務局)

中央図書館以外に4つの図書館でCD・DVDの貸出しを行っているが、それは個人貸出で、視聴覚センターの団体貸出とは違う。個人貸出はあくまで個人が対象で、団体貸出は団体に所属している方が見ることができる。研修用のDVDは団体の方や企業にも利用が増えてきたが、コロナの影響で、今は貸出件数が減っている。もともと視聴覚センターで個人視聴もやっていたが、今は実施していない。

(委員)

今までAVEの会が16ミリの講習会をやってきたが、今後どうなるのか心配している。

(事務局)

16ミリの講習会は、今はやっていない。これまで16ミリを使う方には、半日かけて使い方の操作を教えるから貸出ししていたが、コロナの影響などもあり、半日かけてやるのは難しい。

(委員)

私の幼稚園は若松区にあるが、若松図書館の職員が学期ごとに選んだ絵本をもってきて、子どもたちが好きな絵本を見る機会をいただいている。

また、私が子どもの頃、移動図書館が来るのを楽しみにしていたが、今後高齢化が進み、自分の足で図書館に行けなくなったり、運転免許返納の結果、図書館に行けなくなったときに、図書館に行かなくても本が借りられるシステムなどを検討されているか。

(事務局)

移動図書館は、今、北九州市にはない。それに代わるものとしてひまわり文庫が地域の市民センターにあり、図書館まで行かなくても本を借りることができる。お年寄りの方についても、今のところはお近くのひまわり文庫をご利用いただき、重度の障害などになると、無料の郵送貸出という制度も利用していただきたいと考えている。

(会長)

今日、ご議論いただいたが、最終的には外部評価の意見を、この評価の冊子のそれぞれに記入していくことになる。具体的な文言については、皆さんからいただいたご意見をもとに、図書館の事務局と私の方で調整して整理するので、ご一任をお願いする。コロナの中で、図書館が頑張っているというニュアンスの文章を期待する。

### ③ その他

ア 読書バリアフリー法に係る動き

イ 八幡図書館折尾分館の状況について

ウ 門司港地域複合公共施設について

エ 小倉南図書館の指定管理者候補の選定結果について

事務局から説明

(委員)

意見なし